

OPENING SESSION REPORT

オープニングセッションレポート

熱い議論が交わされた!

オープニングセッション ～いわてをオモシロく企む若者の集い～

●ショートプレゼンピッチ

ブースセッションに参加した16団体がおでってホールでそれぞれの団体のPRを行いました。

●テーマごとの座談会

3チームに分かれ、テーマ別にトークセッションを行いました。最終的にその意見をチームごとにまとめ、チームの意見として発表しました。



テーマ 人口減少でも大丈夫な地域振興論

「地域振興は、一人一人が生きがいを感じられない続かない」

地域振興といっても、一人一人がやりたいことや生きがいを感じられないと、続かないよねって話になりました。人口減少を考えると、岩手だけではなく県外で活躍している人に目を向けるのもひとつ。県外から人が戻ってくるかもしれないし、2か所を拠点にする人がいるかもしれない。そういう人が増えているということにも注目していきたい。



テーマ 学生が活動しやすくなる環境論

「SNSだけだと限りがあるので、学生と社会人がシェアできるアナログの場があつたら良い」

学生の間だとコミュニティがあるのですが、そこを一步出ると社会の人とかに知られる場がない。SNSだけだと限りがあるので、紙媒体や学生と社会人がシェアできる掲示板などがあつたら良いな、という意見がありました。関係ない人ともコラボできるイベントがあって面白いのではないか、という意見がいました。



テーマ 岩手のカルチャーと多様性論

「点の活動がつながって線になるようにできないか」

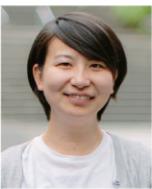
いろんな人がいて個性っていう認識が広がれば良い、そのためどうしたら良いのだろうと話し合いました。まず、活動が点になっているのがもったいない。つながって線になるような活動がもっとできないかと。そのひとつは場所作り。東京と違って岩手はなかなか人が集まるのが難しいので、小さな声を大きく取り上げられるフリーペーパーのような媒体があれば良いのではないか、という意見がありました。

TALK SESSION REPORT

岩手の未来を担う若者のプレゼン&達成知事とセッション!

岩手を拠点に活動している戸塚氏、川原氏、松本氏が自身の仕事と岩手への思いについて、おでってホールでプレゼンテーションを行いました。それでの活動について達成知事も交えて、岩手の未来について考える時間となりました。

GUEST PROFILE



戸塚 絵梨子 氏

株式会社パソナ東北創生
代表取締役

東京都出身。被災地でのボランティア活動を契機に、2015年釜石市に「(株)パソナ東北創生」を設立。研修ソーリズム、実践型インターンシップ等を通じた地域内外の人材交流や地域資源を活かした事業創造の仕組みづくりを通して、地域から豊かな生き方・働き方を創出することを目指して活動中。



川原 直也 氏

NPO法人いわてGINGA-NET理事/
岩手県立大学大学院生

矢巾町出身。「NPO法人いわてGINGA-NET」理事として、学生ボランティアの受け入れや人材育成事業に精力的に携わり、より多くの若者が地域で活躍できる力を養えるよう取り組む。2015年から県内の学生団体で構成する「いわて学生ボランティアネットワーク」代表を務める。



松本 数馬 氏

株式会社イーハトーブ東北
代表取締役

一関市出身。金融機関の仙台支店勤務時に震災を経験し、故郷に戻って継続的な産業復興に貢献したいという想いから、2017年「(株)イーハトーブ東北」を設立。地域活性化事業を通じて雇用創出と関係人口増加に取り組む。2018年から「(一社)世界遺産平泉・一関DMO」代表理事を務める。

テーマ いわての学生たちの取組 ～体験をもちかえり、さらなる実践へ～

「問題意識を持って地域で活躍できる県内外の若者を育てていこう」ということをミッションに活動しています。東日本大震災をきっかけに、体験や学びを得る場として「いわてフィールドワーク・ラーニング」の名前でボランティア教育のプログラムを行っています。また、「いわて学生ボランティアネットワーク」といつて、団体間でつながり、災害時に学生チームとしてすぐ動けるような関係作りを行っています。今までの活動経験から、学生が何かするときはプランからではなく、行動から初めることを意識しても良いのではないかと思っています。



Chiji's Voice

復興というのはかなりの部分が学びのプロセスで、あらかじめ正解が決まっていない中でどうするかを決めていかなければなりませんが、「答えは現場にある」というのが実感です。現場で時間の流れを共有して答えを見つける活動を展開しながら、学びの本質を身につけていっていることが素晴らしいと思います。

テーマ 新事業の立ち上げと釜石での活動について

東日本震災をきっかけに「釜石市で仕事を創る場ができる」という思いで当時勤めていた会社を休職後、現地の社団法人でお世話をになりました。東京生まれ東京育ちで「ふるさと」について考えることがなかったが、活動を通じて帰る場所ができた気がしました。その後、社内ベンチャーで会社を立ち上げ、「都市から地方に関わる人を増やそう」「多様な働き方をできるようにしよう」と活動を行ってきました。復興を乗り越え、さらに持続的に飛躍していくお手伝いができるよう、これからもかんぱっていきたいと思っています。



Chiji's Voice

釜石を好きになっていたい本当にありがとうございます。東日本大震災の被災地=復興地は、新しいことを行う一大チャンスの場でもあって、今回のテーマである「イノベーション」に向いた地にもなっていると思います。



テーマ いわてとあなたのブランドづくり

実家が一関で私自身はUターン者です。仙台で被災して地元でやるべきことがあると思い、会社を立ち上げました。現在、観光コンテンツを作る会社と観光地域づくりの会社をやっています。飲食店経営やメニューの開発を行ったり、平泉では古民家を改装した宿泊施設を作りました。定額タクシーや海外の旅行会社へのPRも行っています。今後は地域のポイントカードを作っていく計画があります。岩手は広いので各地域でブランドを作るのが良いと思います。変化の時代だからこそ、チャンスがあると思っています。



Chiji's Voice

Uターンの方たちの活躍、たいへん心強く思います。岩手を含め東北は外国人観光客がまだ増え始めたばかりですので、飲食やホテルに力を入れているのは素晴らしいです。高くても利用してもらえるサービスを岩手としては提供していかなければならないと思っています。